



シリーズ

武雄の治水

vol.2

～水と共に生きるまちへ～

今回のテーマは

流域治水

地球温暖化などの気候変動で、水害が頻発しています。これは、今後もっと激しくなる可能性もあり、これまでの河川本体のハード対策だけでは、水害による被害をなくすことは難しいと言われています。これからは、流域全体で治水対策に取り組む『流域治水』が必要になります。

流域治水

以下の**3つの柱**を軸として、河川管理者である国、県、流域の市や町、そして、企業や農家、市民の皆さまと一緒に上流・下流など流域全体で水害に立ち向かう取り組み。

1 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削 ・利水ダムの活用 ・遊水地、調整池等の整備 ・堤防の強化
- ・雨水貯留施設の整備 ・田んぼダムの普及 ・ため池の活用 など

2 被害対象を減少させるための対策

- ・住まい方の工夫 ・災害危険区域の指定
- ・土地の利用規制 など

3 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

- ・避難体制の強化 ・排水機場の能力向上
- ・きめ細やかな情報発信 など

一つ一つは小さな取り組みかもしれませんが、それらを組み合わせることで水に強いまちを目指していきます！



治水対策課 水町

①ため池・利水ダムの活用

大雨前の事前放流により、空き容量を確保し、下流に流れる水の量を軽減

②遊水地の整備

洪水時の河川の水を一時的に河川の外に出して溜め、下流に流れる水の量を軽減

③堤防の強化

川の水が堤防を越えても壊れにくい「粘り強い」堤防を整備し、堤防の決壊を回避



④調整池の整備

大雨時の雨を、河川に入る前に一時的に溜め、下流に流れる水の量を軽減

⑤田んぼダムの普及

田んぼに一時的に雨水を溜めることで、水路や河川の水位上昇を緩和し、下流域での氾濫を軽減

⑥雨水貯留施設の整備

ビルの地下や家庭のタンク公園、駐車場などに雨水を一時的に溜め、水路や河川に流す水の量を軽減

⑦住まい方の工夫

宅地のかさ上げや住宅の高床化などの浸水対策や、より安全な地域への移転などにより住まいの被害を軽減

⑧排水施設の能力向上

排水機場の新設や排水ポンプの能力向上により、内水氾濫を軽減

⑨河道掘削

河道を掘って水が流れる断面積を広くし、川の流れをよくするとともに、洪水時の水位を低下させ、河川の氾濫を軽減

詳しくは 企画部 治水対策課 ☎0954-27-7097

引き続き治水対策への取り組みは市報でご紹介するとともに、たけおポータルにも掲載します。▶

